WEP
ウエップ俳句通信
VOL.62

俳句通信

特別作品25句●品川鈴子「菜つ葉服」

特集●〈季語・季題の乱れ〉について

「『季語の乱れ』の現状」吉岡桂六
「季節内存在者として」岩城久治
「生かすべき特質としての季語」上野一孝
「虚心に詠み、読む」大石香代子
「詩語としての季語」酒井弘司
「季語は符牒にあらず」戸恒東人
「季語の力」山口昭男
「季語の判断」中山世一

【特別寄稿】
「擬」の系譜(下)　西池冬扇

【特別寄稿30句】
松岡隆子「白つつじ」

精鋭作家3人競詠
「屋久島」沢田弥生
「花の雲」大島英昭
「初蛙」　林三枝子

●好評エッセイ●
視野遠近「大景小景(3)」廣瀬直人
夢「小さな愛」倉田紘文
伝統の探求「題詠文学の可能性」筑紫磐井
戦後の俳人たち「木下夕爾」松岡ひでたか
虚子の肖像「虚子の弔句」坊城俊樹
飯田龍太は森である「旅立ちのとき」清水青風

作品●小笠原和男・神蔵器・百瀬美津・山下美典・斎藤夏風・黛　執・加藤耕子・中戸川朝人・小林蟇一・水見壽男・大橋　晄・山尾玉藻・大竹多可志・伊藤伊那男・三村純也・田原白童・永川絢子・光部美千代　ほか

季節の中で ㊿

国立・大学通り

書斎にて

守谷ゆき

特集

〈季語・季題の乱れ〉について

有季の俳句を作る人たちにとって季語の存在はなくてはならないものです。が、季語・季題の捉え方、扱い方は人によって違います。例えば「氷のような」という比喩とか、絵に描かれた動植物とかでも季語が言葉として入っていればいいという立場の人たちがいる一方、その立場を否定する人たちもいます。また、季語・季題には季感が伴うべきだという人たちと、季感は必要ない、という人たちもいて、季語・季題の乱れがしばしば指摘されています。そのことについてどのようにお考えか8人の俳人にお書きいただきました。